

令和6年度 ゆずの樹はうす 事業報告書

1 総括

令和4年度の事業開始以降、慢性的な人手不足により、開所日を限定せざるを得ない状況が続いている。5年度の延べ利用者数83名に対し、6年度は125名に増加したが、利用率は34.2%にとどまっている。ただし、6年度にあった緊急利用の相談2名については、勤務の調整で支援体制の確保を行い、希望通りの受入が出来た。緊急の受入体制強化には支援体制の強化が必要であり、7年度以降も様々な媒体を通じて人員の確保に取り組みたい。また、6年度に利用した体験利用登録者7名のうち6名は利用開始後1年半以上が経過し、概ね落ち着て過ごすことができていたように感じる。残りの1名は、6年度から体験利用を開始し、利用回数も2回ということもあり、まだ落ち着かない様子であるが、利用を重ねることで安心して過ごせるように支援にあたりたい。課題であった、利用者支援におけるPDCAサイクルの実施については、個別支援計画の作成や評価、記録など、各行程で施設長をはじめ事業所全体のスキル不足が見られた。7年度以降も継続してスキルアップに取り組みたい。

2 事業概要

- 1) 施設名 ゆずの樹はうす
- 2) 事業種別 短期入所事業（共同生活援助併設型）
- 3) 所在地 東京都小平市栄町2-1-15
- 4) 経営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 1名
- 6) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 7) 事業指定年月日 令和3年4月1日
- 8) 職員 管理者 1名
サービス管理責任者 1名（常勤換算 0.8）
世話人 8名（常勤換算 6.4）
生活支援員 10名（常勤換算 4.3）
（全て併設しているさかえホームと兼任）

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現の支援
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
安心と希望のもてる生活

4 基本方針

- 1) 一時的な生活支援
家族または介護者が何らかの理由（冠婚葬祭、病気、事故、休養、その他の理由）により、一時的に自宅で支援することが困難な場合に、日常生活に必要な支援を行う。
- 2) 生活体験としての支援
生活体験の幅を広げ、より豊かな生活を支援する。

5 実施事業（活動内容）

- 1) 居室の提供
- 2) 食事の提供
- 3) 洗濯、掃除等の生活支援
- 4) 健康管理
- 5) 日中活動先（福祉サービス及び職場等）、関係機関との連絡、調整
- 6) 入浴等生活行為の支援
- 7) その他日常生活に必要な支援

6 日 課

5時00分～	7時30分	起床
7時30分～	9時30分	日中活動先及び勤務先等へ外出
16時00分～	17時00分	利用開始
16時00分～	20時00分	入浴
18時00分～	19時00分	夕食
20時00分～	22時00分	就寝

7 重点課題・目標

1) 活動

(1) 全体験利用者が1か月に1回以上利用できる体制を整える。

【成果と課題】

体験利用登録者7名のうち3名の利用者から毎月1回の利用希望があり、緊急利用を優先した1回を除き、希望通りの受入を行った。その他4名については、2か月から半年に1回の希望があり、希望日の重複や支援体制の不足はあったが、利用日を調整し、概ね希望通り受け入れることができた。

(令和6年度体験利用の実績)

利用者実人員	7名
利用延日数	76日

(2) 緊急時については、体験利用に優先して受け入れを行う。

【成果と課題】

緊急の利用希望は2名で土日を含め希望日を全て受け入れた。緊急時の受け入れを行うにあたり、体験利用者のキャンセルを1日行った。

(令和6年度緊急利用の実績)

利用者実人員	2名
利用延日数	49日

(3) 利用者の支援内容を充実する

①PDCAサイクルの実施

- ・個別支援計画の共有
- ・計画に基づく支援
- ・利用者の様子や支援内容等の記録
- ・支援の評価と必要に応じた計画の見直し

②ケース記録の充実

- ・利用者の行動のみでなく、その背景や心情の考察
- ・利用者の嗜好、変化等に対する気づき

【成果と課題】

6年度に利用した全利用者9名（体験利用7名、緊急利用2名）のうち8名は利用開始後1年半以上が経過し、食事、入浴、居室での過ごし方など利用時のルーティンがほぼ確立しているほか、職員との関係構築が進んだこともあって概ね落ち着いて過ごせていた。残りの1名は、6年度より体験利用を開始し2回のみ利用で、落ち着かない様子が見受けられたが、利用に対しての大きな拒否反応は見られず、今後特性把握や関係性構築に取り組みたい。9名全員の利用者及び家族より7年度も利用を継続したいとの意向があり、引き続き支援の充実に取り組んでいきたい。個別支援計画については、9名全員分を作成したが、表現が曖昧で状況がわかりにくいものがあるほか、本人の状況と支援の方針や手法が混在して記述されているなど内容に課題が多い。ケース記録については、利用者の行動（起床、食事、排泄、外出、就寝等）は概ね丁寧に記載され一日の流れは把握できるようになったが、支援状況や利用者の様子、心情面の記載がまだ不十分で

状況がわかりにくいものが多かった。個別支援計画、ケース記録共にスキルアップが必要である。

③事故防止を徹底する

- ・服薬管理方法等のマニュアルを遵守し、誤薬等の事故を防止する。
- ・無断外出行為のある利用者の安全確保のため、見守りを徹底する。また、必要止むを得ない場合は本人、家族の同意を得て夜間の建物施錠を行う。
- ・利用者の行動特性を理解し、支援の統一を図ることにより未然に事故を防ぐ。

【成果と課題】

誤薬、離接は発生しなかった。また、昨年度2件物損があった利用者については、利用開始から約1年半が経過し、環境に慣れたこともあって落ち着いて過ごしており、物損事故は発生しなかった。

2) 人材育成

- (1) 併設のさかえホームと合わせて常勤換算13.5名の支援体制の安定確保
主たる職員1名、生活支援員等約4名を新規に採用する。
(令和5年度末 常勤換算 12.3名)

【成果と課題】

併設しているさかえホーム同様、数名の職員は採用できたが、退職者数の方が上回り、年度当初常勤換算12.3名だった職員配置は年度末には10.8名と減少となった。職員数の不足については、管理職員の現場支援や在職職員の勤務を増やすことで対応し、日常の支援に支障をきたすことはなかった。

- (2) 職員間の連携・情報共有によるチーム支援の充実を図る

① 情報共有

- ・施設長及び現場責任者は、利用者の予定表、ケース記録、業務日誌、申し送りノートへの記入を漏れなく行う。
- ・職員は支援業務に入る前に必ず申し送りノート、ケース記録等の確認を行う。また、管理者及び現場責任者は、職員確認欄のチェックを漏れなく行う。
- ・月1回ケース検討会議を行い、利用者の支援方針、具体的な支援内容について協議する。また、欠席した職員には、施設長及び現場責任者から書面及び口頭により周知する。

② 業務標準化

- ・日常の利用者支援における基本的な確認事項（衛生面、服装、整容、体調確認、持ち物等）を掲示し、職員は支援業務に入る前に毎回確認する。
- ・実際の支援を通し、施設長及び現場責任者から職員へ支援方針や具体的な支援内容を伝え、支援の統一を図る。

【成果と課題】

入居者の状況や事務連絡等は申し送りノートや口頭伝達で行い、概ねスムーズに業務の引き継ぎが行われている。ケース記録においては、前述のとおり、5年度と比較すると利用者の生活の流れ、家族や関係機関との共有事項等についてはやや丁寧に記録されるようになってきてはいるが、利用者の様子や心情面の考察が不足している他、支援計画自体が整理されていないこともあり、計画に基づいた記録という点も不十分なものとなった。その他、身だしなみ、忘れ物等についての確認はマニュアルの活用によりやや改善が見られるが、細やかな気づきや配慮等について職員に個人差がみられ、標準化には至っていない。

8 経営管理

- 1) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

【成果と課題】

月次試算表の分析により月々の経営状態の把握に努め、計画的に予算を執行した。

2) 介護給付費収入等の安定確保を行う。

・目標利用率： 60%

【令和6年度目標額】

・介護給付費収入	約230万
・都加算収入	約100万
	約330万

【成果と課題】

支援体制が確保できず、利用率は34.2%と目標の60%を16.8%下回った。これに伴い介護給付費収入等の収入も約159万円と目標の330万円を約171万円下回った。但し、前年度比で利用実績が11.5%増加し、収入は約41万円増となった。

《利用率》	令和5年度期実績	令和6年度実績	前年度との差
	22.7%	34.2%	11.5%
(内訳)			
平日	31.7%	46.5%	14.8%
日祝	4.2%	9.9%	5.7%
《給付費等収入》			
介護給付費収入	令和5年度実績 約88万円	令和6年度実績 約102万円	前年度との差 約14万円
都加算の収入	約30万円	約49万円	約19万円
総額	約118万円	約151万円	33万円

9 事故報告
なし。

10 夜間等緊急時の対応

夜間については、緊急対応が必要な事案は発生しなかった。

11 実施状況

1) サービス実施日数 自：令和6年4月1日 至：令和7年3月31日
125日間(内、土・日・祝日開設9日間)

12 利用状況

1) 利用登録者数 11名
2) 実利用者数 9名

(1) 利用目的

①緊急利用	2名	(令和5年度 2名)
②体験利用	7名	(令和5年度 9名)
合計	9名	(令和5年度 11名)

(2) 平日・土日祝日利用

①平日	8名	(令和5年度 10名)
②土日祝日	1名	(令和5年度 1名)
合計	9名	(令和5年度 11名)

3) 延べ利用者数

(1) 利用目的

①緊急利用	49名	(令和5年度 38名)
②体験利用	76名	(令和5年度 45名)
合計	125名	(令和5年度 83名)

(2) 平日・土日祝日利用

①平日	122名	(令和5年度 80名)
②土日祝日	3名	(令和5年度 3名)
合計	125名	(令和5年度 83名)

1.3 利用者状況

1) 年齢別

	実人数	延べ人数
・20歳以上30歳未満	9名	76名
・30歳以上40歳未満	1名	13名
・40歳以上50歳未満	0名	0名
・50歳以上	1名	36名
合計	11名	125名

2) 区分別

	実人数	延べ人数
・区分3	1名	10名
・区分4	4名	62名
・区分5	1名	12名
・区分6	5名	41名
合計	11名	125名

3) 性別

	実人数	延べ人数
・男性	11名	125名
・女性	0名	0名
合計	11名	125名

4) 居住状況

	実人数	延べ人数
・管内居住	6名	72名
・管外居住	5名	53名

1.4 環境の整備

共有スペース及び居室を定期的に清掃し施設内美化に努めた。

1.5 健康管理

アセスメントで基礎疾患、アレルギーについて把握を行った。基礎疾患のある利用者はなく、大きな健康問題は起きなかった。併設するさかえホームで新型コロナウイルスの罹患者が出た際は、直近で利用があった利用者に連絡し、体調確認や利用の有無を確認した。

1.6 防災計画

さかえホームとともに災害時避難訓練を年2回実施した。